

VIII. キャリア教育

ーキャリア教育科目とアウトキャンパス・スタディ

【1】 駿河台大学のキャリア教育

1. 広義のキャリア教育と駿大社会人基礎力

駿河台大学は、学生のみなさんがしっかりと社会へと巣立っていけるように、これまで以上に、全授業を通じて総合的に就業力（社会で継続的に活躍できる力）を育成することに努めることとしました。その意味で、全授業は、広義での「キャリア教育」として位置付けられます。しかし、「就業力」というだけでは、どのような力を身につければよいのか分からないかもしれません。そこで、「就業力」を駿河台大学なりに噛み砕いて示すことにしました。それが、5つの能力、16の能力要素よりなる「**駿大社会人基礎力**」です。

- (1) 基礎的な力：①読解力、②文章力、③情報収集力
- (2) 考える力：④論理的・多面的思考力、⑤情報処理能力、⑥理解力、⑦創造的発想力
- (3) 行動に移す力：⑧主体性、⑨行動力・実行力
- (4) 協働する力：⑩常識力（一般常識・マナー）、⑪プレゼンテーション能力・表現力、
⑫コミュニケーション能力、⑬協調性
- (5) 総合的な力：⑭課題発見能力、⑮計画力、⑯問題解決能力

それぞれの科目で、どの能力要素を育成しようとしているかは、シラバスの「到達目標」に書いてあります。卒業までにバランスよく社会人基礎力を身につけるよう、努力してください。

2. キャリア支援科目 — 駿大キャリア教育の中心 —

駿河台大学の科目は、大きく分けると、教養科目と専攻科目とキャリア育成科目の三つよりなります。

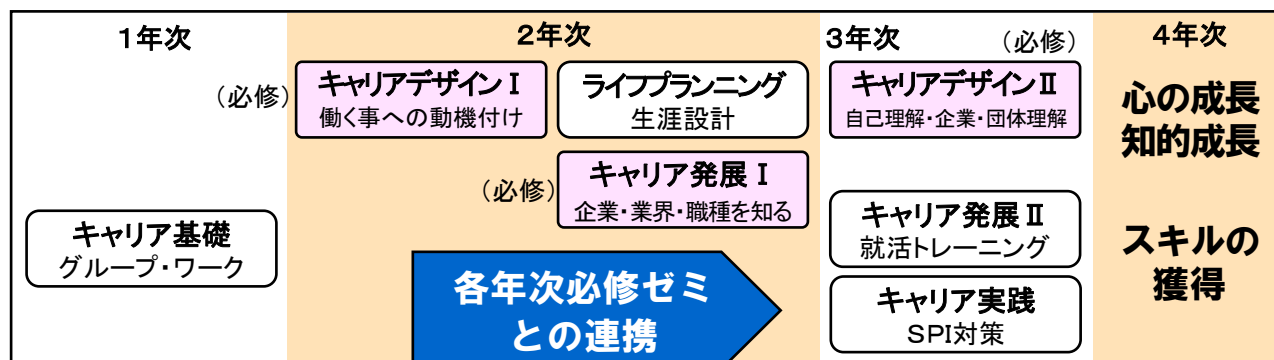
教養科目は、学部を超えて、基本的なものの見方・多面的なものの見方を学んだり、幅広く、現代社会の様々な問題を学んだりするための科目です。専攻科目は、各学部が、それぞれの専門領域において、基本的に学んでほしいと考える内容を提供する科目、それぞれの分野から社会を理解するための科目です。教養科目・専攻科目も、上述のように、様々な駿大社会人基礎力を養い、総合的に就業力（社会で継続的に活躍できる力）を育てていくという点では、広い意味でのキャリア教育として機能するものです。

しかし、キャリア支援科目は、自分を知り、職業を知り、社会を知るための講義や様々なグループワーク、そして、アウトキャンパス・スタディを通じて、より直接的に就業力を養い、学生・職業・社会をつなぐ科目であり、駿大キャリア教育の中心となるものです。

【2】 キャリア教育とアウトキャンパス・スタディ

キャリア支援科目は、授業形式で行う体系的かつ効果的な**キャリア教育科目**と、社会を学びの場とし、社会で通用する力を育成する**アウトキャンパス・スタディ**とよりなります。

キャリア教育科目の概要は、次のとおりです。これほど体系的に「キャリア（職業・人生）」を学べる大学は多くありません。どうですか。しっかり学べば、社会に出る準備はきちんとできると思いませんか。



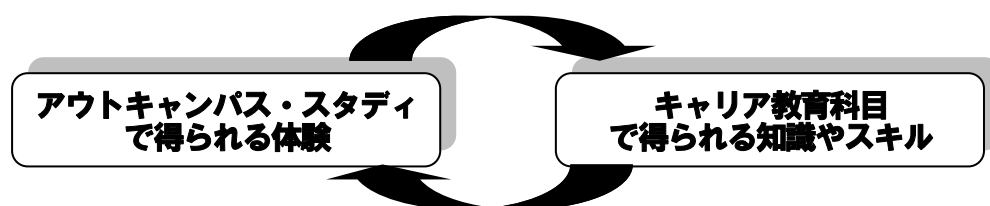
駿河台大学のキャリア教育のもう一つの大きな特徴は、「キャリア教育科目」と「アウトキャンパス・スタディ」とが組み合わさっているということです。

上述の「**キャリア教育科目群**」では、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」、「キャリア発展Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目を通じて、自己分析、人生設計、企業・業界についてなどキャリアに関する事柄を学ぶとともに、「キャリア基礎」などのグループワークを通じてコミュニケーションなどのスキルを磨くことができます。

しかし、それらの知識やスキルを、机上のものに止めず、より具体的・実践的な形で自分のものにする必要があります。その実践応用の場を提供するのが、「**アウトキャンパス・スタディ**」です。教室（大学キャンパス）を飛び出し、実際に社会の様々な現場に飛び込んで、そこで「仕事」を経験し、社会の様々な人々と触れ合うことを通じて、卒業後に必要となる社会的な力を実践的に学び取るのです。多様な人々との触れ合いや共同作業の中で、自分の未熟さを痛感したり、うまく出来ないことを悩んだり、一つのことをやり遂げた達成感を感じたり、感謝したり感謝されたり、様々な辛さや驚き、そして喜びを体験するのです。ここで得られる体験は、リアルな社会の中で得られるものであり、それだからこそ、大きな価値を有するのです。

そして、「アウトキャンパス・スタディ」で得た体験を、「キャリア」ということに結び付け、よりしっかりとしたものにするのが「**キャリア教育科目**」です。「アウトキャンパス・スタディ」の体験も、ただやりっぱなしでは、本当に役立つものとはなりません。しっかりと「言葉」にして、自分の中に意味づけなければならないのです。しかし、「アウトキャンパス・スタディ」における体験を「言葉」にすることは、なかなか難しいのです。自分の体験を、しっかりと有効な形で相手に伝えられないのでは、せっかくの体験も役に立ちません。そのリアルな体験という素材を、素材のままに終わらせず、「社会、企業、大人に伝わる表現」へと昇華させなければならないのですが、その際に役に立つのが、職業や社会に関する知識、どのようにアピールすればよいかという知識とスキルを提供するキャリア教育科目なのです。

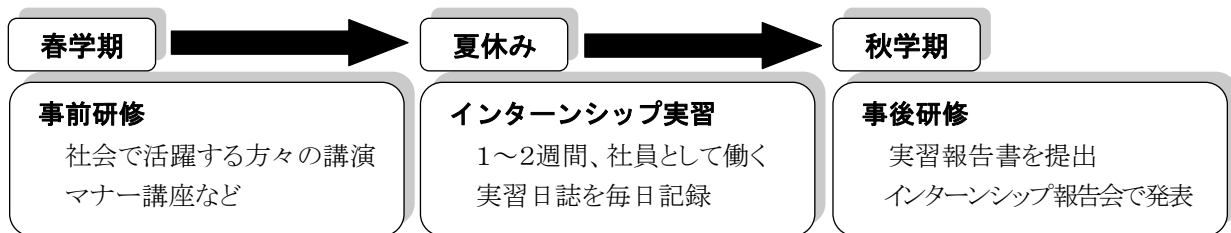
このように、アウトキャンパス・スタディとキャリア教育科目とが密接に関わり合っていることが、駿河台大学のキャリア育成科目の強みです。



【3】 アウトキャンパス・スタディ① — インターンシップI

インターンシップとは、簡単に言えば、学生のみなさんが実際の職場で短期間働いてみて、社会経験を積むということです。社会の現場で働くという体験を通し、実際の職場とはどういうものかを理解し、現実根ざした職業観を身につけるとともに、自分の何が強みで自分に何が足りないかなどを理解することを通じて、自らをキャリアアップさせるものです。「キャリアアップ」とは、自分の能力を磨き、その生かし方や能力範囲を広げていくことから始まり、自分に適した職業を選択し、働く中での生きがいを見出すなど、自分自身でより良い生き方を自ら切り開いていくことを意味します。また、インターンシップには、就職時のミスマッチという失敗を未然に防ぐことに効果があります。

インターンシップは、多くの大学に導入されていますが、駿河台大学のインターンシップの特徴は、「インターンシップI」という正規の科目（4単位）として設置されていること、そして、事前研修・事後研修が充実していることです。「インターンシップI」は、次のように行われます。



実習前に、まず「働く」ということの意味を理解し、はっきりとした目的意識をもって実習に臨めるようにし、実習後は、自らの体験をきちんと「言葉」にして、発表ができるようにする、この過程全てを教育として行っています。そして、全過程の成果を「ポートフォリオSCIP」としてまとめ、就活等での振り返りを可能にします。秋学期の報告会終了後には、「学生生活にも、その先にある就職活動にも自信がもてるようになった」など、明るい声が例年数多く聞かれます。

また、駿河台大学のインターンシップは、「地域インターンシップ」とも呼ばれているように、大学近隣の地域を中心とした企業団体と大学が協力して、教育の一環として実施することを特徴としています。「地域の教育力」を活かし、学生のみなさんに、将来の進路を真剣に考える機会を提供しています。

なお、2015年度の実習先のリストは、次ページに示してあります。参考にしてください。

インターンシップ実習先一覧（2015年度）（実習参加者42名）

（自治体関係）

団体名		人数
入間市	入間市役所	1
	図書館	1
入間市 関連団体	(財)入間市勤労者福祉 サービスセンター	2
狭山市役所		1
飯能市	飯能市役所	2
	図書館	2
日高市	日高市役所	1
	図書館	1

（企業等）（五十音順）

埼玉県		
地区名	企業名	人数
入間市	(福)永仁会	1
川越市	小林税理士事務所	1
	(医)直心会帯津三敬病院	1
	(株)ホンダプロモーション	1
さいたま市	京王観光(株)	1
	(株)マミーマート	2
坂戸市	(株)マルワ (アレックス飯能)	1
狭山市	アクセプト(株)	1
所沢市	(株)いせき	2
	(福)陽明福祉会陽明保育園	1
飯能市	赤門塾(株)	1
	(有)アニバーサリー	1
	西武ガス(株)	2
	ときたサービス(有)	1
	(有)名栗温泉	2
	(株)ニッシン	1
	飯能ケーブルテレビ(株)	4
	(株)飯能ゴルフ倶楽部	1
	飯能信用金庫	1

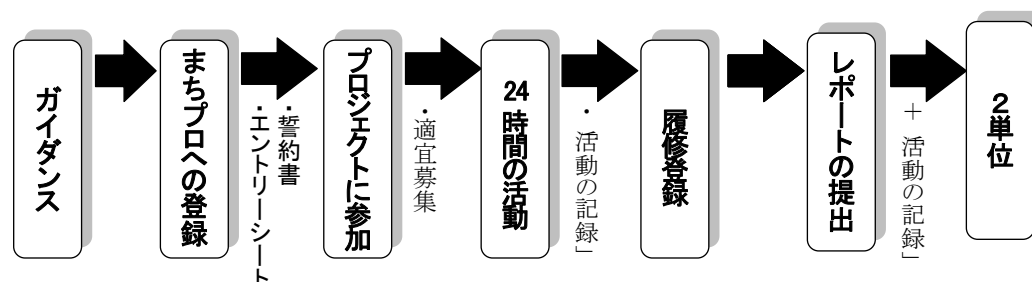
東京都		
地区名	企業名	人数
東京 23区	(株)風の旅行社	1
	(株)共立メンテナンス	3

栃木県		
地区名	企業名	人数
栃木市	(株)フォレスフィール	1

【4】 アウトキャンパス・スタディ② — インターンシップⅡ・まちづくり実践 —

1. 概要

「インターンシップⅡ」と「まちづくり実践」は、大きくは、後に説明する「**まちプロ（まちを元気に、まちで元気にプロジェクト）**」を構成するアウトキャンパス・スタディです。「インターンシップⅠ」とは異なり、実際に「職場で働く」ことはしませんが、社会のニーズに応えたプロジェクトに参加したり、祭や通学合宿などの「まち」のイベントに参加したりすることを通じて、社会に出るとどのようなことが求められるのか、どのように行動しなければならないかということを経験的に学び、社会性や職業観などを養うことを目的としています。この二つに関しては、次のようにして単位が与えられます。



「インターンシップⅡ」と「まちづくり実践」は、その性格上、企業や商店街等の要望等に応じて、参加する学生を募集することになります。具体的な活動については、大学会館横の掲示板、本学ホームページ、ポタロウを通じて告知します。

掲示等を通じた募集の後、説明会等が開かれ、参加者が登録されます。

活動への登録と履修登録とは異なります。活動に参加して、24時間の活動時間の目途が立った時点、あるいは、24時間に満ちた段階で、履修登録をしてください。

2. まちプロ（まちを元気に、まちで元気にプロジェクト）

「まちプロ」（まちを元気に、まちで元気にプロジェクト）は、教室を飛び出し、「『まち』を教室、『まちの人々』を教師」に、成長を目指すプロジェクトです。「まち」（地域社会）の様々な活動、「まち」に貢献する様々な試みに、学生の皆さんが自ら参加し、実地に、「社会」とはどういうものか、社会ではどのような力が求められるのかなどを学び、自らの能力を磨いてもらい、「社会に出て活躍できる力」（元気）を得てもらおうというのです。その意味で、このプロジェクトは、「まちで元気に」プロジェクトなのです。

また、この「まちプロ」は、地域の活性化に貢献することを一つの目的としています。若い人たちが地域の活動に参加することで、新たな活気が生まれればと考えているのです。その意味で、このプロジェクトは、「まちを元気に」プロジェクトでもあるのです。

地域で活躍されている方々とともに活動し、協働する中で、直接教えを受けたり、様々な「気付き」に導いていただいたり、そういう「地域の教育力」によって、学生の皆さんに実践的に社会で通用する力を身につけ、社会的な成長を遂げてもらいたい。そして、学生の活動への参加が、「まち」に活気を与えるものとなってほしい。これが、「まちプロ」の思いです。

「まちプロ」は、駿大社会人基礎力の「行動に移す力」、「協働する力」、「総合的な力」を身につけるには格好の場です。積極的な参加を期待します。それが、「行動力」を身につける第一歩なのですから。

「まちプロ」は、2004年度に、「大学教育のオリンピック」とも言われた「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代 GP=Good Practice 優れた教育の実践）に、本学の「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」（通称「いるプロ」）が、倍率7倍という超難関を突破し、みごと採択されたことに始まり

ます。本学の教育姿勢が高く評価されたのです。その時点での活動は、「入間」に限定されていました。そのため「いるプロ」と名付けられました。しかし、この活動は、現在、入間だけでなく、飯能やその他の地域に広がっています。そこで、飯能での活動を含めたプロジェクト全体を「まちプロ」と称することにしました。

21世紀は地域の時代と言われています。この「まちプロ」のような体験型学習「アウトキャンパス・スタディ」は、近年ますます注目されています。本学は、これを「インターンシップⅡ」と「まちづくり実践」として、いち早く教育に取り込んでいるのです。

3. 駿大ふれあいハウス&駿河台大学広報プラザ（サテライトオフィス）

駿河台大学は、「まちづくり実践」の拠点として、学生を現場で支援できるように、入間市の中心に位置する i-pot（アイ・ポット）の2階に「駿大ふれあいハウス」、東飯能駅西口ロータリー前に「駿河台大学広報プラザ」という二つのサテライトオフィスを開設しています。ここは、また、市民の方々との交流の場ともなっています。



「ふれあいハウス」
アイポットビル2階(UNITED cinemas のビル)



「駿河台大学広報プラザ」
東飯能駅西口ロータリー前

4. インターンシップⅡ（2単位）

「インターンシップⅡ」も、「インターンシップⅠ」と同様に、就業体験（インターンシップ）をとおして、仕事とはどういうものか、仕事においては何が必要とされるかなどを体験的に学び、社会性や様々な技術、そして職業観などを得ることを目的とします。

「インターンシップⅠ」との違いは、企業や地方自治体などの職場に入って実習をするのではなく、地域に貢献するプロジェクトを自主的に運営したり、情報を発信したり、学生の感性を十二分に発揮して地域に様々な提案をしていったりする活動をすることです。その活動において、自主性や責任感、さらには課題発見能力・問題解決能力積極的などを養っていきます。

具体的には、次のようなプロジェクトに参加することになります。

- 入間市民のための初級パソコン講座：パソコン講座の企画・運営
- FMチャッピー（茶笛）オンエア：入間市のFMラジオ局での番組制作と放送
- 飯能プランニングコンテスト：飯能の活性化のためにアイデアを！
- 企業・団体と大学との懇親会の企画運営

5. まちづくり実践 （2単位）

「まちづくり実践」の目的は、私たちの地元地域に生きる人々とふれあい、地域の催しに取り組み、まちづくりに参加することを通して学生のみなさんの社会観や職業観を育成することにあります。まさに、「『まち』を教室、『まちの人々』を教師」にする取り組みです。

「駿大ふれあいハウス」を拠点とする入間市や「駿河台大学広報プラザ」を拠点とする飯能市の様々なところで市民と交流し、情報交換及び生活支援の場を設け、かつての商店街が果たしていた機能を若者の感性でよみがえらせようというものです。具体的には、次のようなプロジェクトに参加することになります。

- まちおこしイベント企画・運営：祭に参加するなど、地域活性化のお手伝いをします
- 通学合宿サポート：小・中学生が通学合宿をする際に一緒に宿泊し、生活指導をします
- 入間川環境保全：地域の人と協力して、入間川でブラックバスを駆除します
- 外国語しゃべり場：留学生が市民の方々と母国語で触れ合い、文化交流します



【5】 アウトキャンパス・スタディ③ — ボランティア実践 —

ボランティア実践は、多様なボランティアのあり方を実践から学んでいこうという科目です。

ボランティアとは、もともと自由意思を意味するラテン語の「ボルンタス」が語源です。ボランティアは、自由意思により行う、基本的には無償の社会奉仕活動です。一般にボランティア活動は障害者に対するものが認知度が高く、社会的にも重要ですが、最近では、野外活動や環境保全の分野にも、ボランティアが活躍する機会が増えつつあります。また、障害者が活動を広げる機会も増えて、両者をつなげる活動も重要性を帯びてきました。

本科目では、障害者ボランティア、野外活動ボランティア、環境保全ボランティアの3つの異なったボランティアのあり方を、講義と実践の両方を通じて学びながら、障害者を取り囲む実情、野外活動における介助や安全管理、環境教育を目的とした景観や生物の管理手法を理解し、ボランティアの多様なあり方を実感しながら「共生社会」を目指す意欲を高めることができます。

「ボランティア実践」は事前登録科目です。「講義時間割表【履修の手引】」の「VI. 事前登録シートを教務課に提出する科目について」をよく読み、教務課で「事前登録シート」を受け取り、記入して提出期日・時間内に提出してください。

【6】 アウトキャンパス・スタディ④ — 森林文化実習 —

飯能市は、「森林文化都市」宣言を行っている緑豊かなまちです。また、駿河台大学も、キャンパスの背後に広大な森を有しています。この森の中で、飯能市や地域のボランティアの協力を得ながら、森や木を生かし、その中で私たちも生き、自然とかかわりながら活動を行うのが、「森林文化実習」です。

「森林文化実習」は実習中心の授業です。実際に作業を行いますから、2コマ連続で授業を履修します。飯能市から100年間無償で借り受けた「駿大の森」(奥名栗)、「駿大の里山」(大学の裏山)において、「癒しの道」(林道)作成、間伐、キノコの菌打ち、山菜などの収穫、竹を工作した流しソーメンやピザの調理、植林、下草刈りを行います。授業は、1年間にわたっていますが、ほぼ隔週で実施します。時には、朝からバスで「駿大の森」に出かけて行き、1日作業となることもありますので注意してください。森林に入って作業をすることは、疲れますが、暗い森林に間伐によって光が入りだすと、それは爽快で、心が落ち着いてくるのを体験できるはずです。

多くの学生に体験してほしいのですが、実習のため50名を履修上限人数とします。

「森林文化実習」は事前登録科目です。「講義時間割表【履修の手引】」の「VI. 事前登録シートを教務課に提出する科目について」をよく読み、教務課で「事前登録シート」を受け取り、記入して提出期日・時間内に提出してください。



<キノコの菌打ち>



<癒しの道：学生製作の階段>



<駿大の森：下草刈り>